

別記第1号様式(第7関係)

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第4回 豊島区都市計画マスタープラン改定検討委員会
事務局(担当課)		都市計画課
開催日時		平成25年2月19日(火) 10時~12時
開催場所		あうるすぽっと3階 会議室
議 題		都市計画マスタープランの改定について
公開の 可否	会 議	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開 傍聴人数 0人
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
	会 議 録	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部非公開
		非公開・一部非公開の場合は、その理由
出席者	委 員	中川義英 中林一樹 蟹江憲史 柴田いづみ 長島眞 森永鈴江 上野容子 伊部知顕(代理出席) 外山克己 柳田好史 木崎禎一 松岡昭男 熊澤雄一 豊島区都市整備部長
	事 務 局	豊島区都市整備部都市計画課長 豊島区都市整備部都市計画課都市計画担当係長 豊島区都市整備部都市計画課都市計画担当係長(都市計画)主任主事
	そ の 他	日建設計総合研究所

審 議 経 過

1 開会

委員長より挨拶。

2 中間のまとめ（素案）について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。主な発言は以下の通り。

【委員長】

今年度の中間のまとめとして、「第4章 将来都市像の実現にむけた都市づくり方針」は、図を含めてまとめていくのか。

【事務局】

第4章については、平成25年度の地区別まちづくり方針での検討を反映した形で示したいと考えている。今回の中間のまとめでは、第4章については細かく表現せず方向性を示すに留め、前半部分についての方向性を示そうと考えている。

【委員】

第1章第2「2 役割」に「(2) 区民・民間事業者、国、東京都などと都市づくりのビジョンを共有し」とあるが、実際に国や東京都が豊島区をどう位置付けているのかわからない。

その下の図で“課題解決へ”部分に描いてある表現は、これで良いのか気になる。

「第3 構成と改定の基本的な考え方」では、“多様な主体”と繰り返し書かれていて、NPO や住民の発信するグループということはわかるが、それをどう受け止めるのか、組織的なイメージがない。中間のまとめ以降でもいいので考えていただきたい。

P.3「目標実現に向けた8つの柱」は、「防災」が最初に出てくるのはすごいと思うが、順番はこれでいいのか。「災害に強い」が欠けてはいけない内容だというのはわかるが、都市計画マスタープランのなかでの位置づけとして、順番を考えて欲しい。

P.5「1 災害に強い都市の実現」と「2 人が優先された交通基盤の整備」のところでは、木密地域不燃化10年プロジェクトのことが書かれている。自分たちの都市のどこが弱点であるか、問題点をどう表現するかが大事な視点かと思うので工夫して欲しい。

【事務局】

都市計画マスタープランの目標期間を10年と設定しているのに関係し、木密地域不燃化10年プロジェクトに関する「防災」を第1としている。東京都が10年プロジェクトを始めており、その姿をどうするかということもあり上位にあげた。東京都のプロジェクトを、区がどう活用していくのか、それをまちづくりにどう展開していくのかということをごここにしたい。

【委員】

区民向けに背景の資料を付ける必要がある。

【委員長】

「区民、民間事業者、国、東京都」と並列になっていて、それぞれがビジョンを持っているように感じられてしまう。ここでは二つのことを言っていて、一つは区民や民間事業者とビジョンを共有することが重要という話、もう一つは国や都との連携、東京都の環状メガロポリス構想のなかにおいて豊島区がどのように位置づけられているのか等、国や都のビジョンと連携を図るという話である。この両方を分けて記述すべきである。

【委員】

P.4「3 土地利用の方針」で土地区画整理事業は想定しないのか。今では、いわゆる小さい区画整理あるいは柔らかい土地区画整理があり、木密地域の解決にもなる。ただ地区計画だけで済むものではないので、土地区画整理という手法も考慮して頂きたい。

豊島区の将来都市像のなかで、他区等との連携がある。池袋は都心部への発信もあるし、埼玉等への発信もある。東池袋は副都心に入るが、その先の都心へ行く連携軸で有楽町線だけが入っていないのはなぜか。

資料3では統計資料等の出典年度が古いものがある。なるべく論拠とするデータは、最新のものを使った上で推論した方が良いのではないか。

【事務局】

ご指摘の通り、将来都市像の連携軸に有楽町線が抜けているので入れる。資料3のデータについては、最新のものが公表できる状態になったものから反映させる。

土地利用の方針に土地区画整理事業を加えるというご意見があったが、具体的な事業をここで反映するのではない。土地利用の方針では、土地利用の規制誘導としてどういうものが使えるのかというところを示そうと考えている。

【副委員長】

P.4 将来都市像の中で、連携軸の表現を再検討すべきである。道路よりも幅が広く描かれている。地下鉄の通っている道路は全部、地上で連携するようなイメージなのかと思ってしまう。軸と言っても、都市形成軸と連携軸では、まったく機能・役割が違うので、表記も工夫した方がよい。都市像として空間的なイメージから言うと、地下鉄については、突然駅だけが地上にあるように見える。出来上がった土地利用的にどの様な街並みになるのかという時に、連携軸の機能は重要だが形はないという位置づけだと思うので表記を変えるべき。

土地区画整理というのは、なかなか現状では書きにくいところはあるが、今回の都市計画マスタープランで、P.5 「1 災害に強い都市の実現」に「(4) 被災後の都市づくり」があり、復興でどの様な都市をつくるかを共有していこうとしている。木造密集市街地が焼失してしまった時に、どう都市復興するのかというのが最大の課題で、そこで土地区画整理が必ず出てくるであろう。土地区画整理をする方が、早く復興できるのは間違いないので、道路状況が極めて悪い箇所ほど事業をせざるを得ないと思う。

【委員代理】

東京都は豊島区どう見ているのか、非常に気になる。東京都の設定したセンターコアエリアに入っていて、副都心という位置づけになっているというのは承知しているが、豊島区が東京都からみたらどうなって欲しいのか、疑問に思っていた。

埼玉県との関わりや、横浜と地下鉄が直通するといった他県とのつながりがある。そのなかで豊島区の姿というのは変わってくるので、その旨記載していただきたい。

資料2第1章第2「2 役割」の「区民、民間事業者、国、東京都などと都市づくりのビジョンを共有し」の部分では、特に「区民との共有」が実際できていない気がする。マスタープランの見せ方やフレーズ、あるいは冊子のデザインなどで区民にどうプロモートするのかが問われる。

【委員】

今回の中間のまとめはよくできていると思う。特に、課題認識のところで、「複層的な課題」という表現が良い。資料2P.1の絵は、左は羊羹を切ったように縦割りになっていて、右側はおしくらまんじゅうをしている感じになっていて、よく表現されている。ただ、“協働”、“連携”と言葉はあるけれども、協働、連携の主体が羅列されているだけなので、豊島区が協働と連携に対してこうする、という主語があるとわかりやすいかと思う。

順番については、確かに都市計画マスタープランの体系からすると、防災が最初にくるのは違和感がある。ただ、策定の時点も大事なので、3.11直後であることや、東京都の木密不燃化10年プロジェクトの話などを、前書きで触れておけば納得して

読めると考える。

【委員】

西暦と和暦が混在している。

資料2P.5「高齢者、障害者、子ども、外国人など誰もが」という言葉があり、特徴ある人たちを羅列しているが、「なども含む誰もが」としないと、区民全体を表わさない。

同じくP.5「4 持続可能な低炭素型都市への転換」のところで、みどりを増やすことによって、単にヒートアイランドをなくすだけではなく、もっと区民が快適な生活を送れるようにみどりを増やしていく、といった言葉を入れて欲しい。

それと、“木賃アパート”と書いてあったり、“木造賃貸アパート”と書いてあったりしているので、言葉を統一したほうがよい。

【委員】

“協働”や“連携”という言葉は、私たち福祉の業界ではよく使う言葉だが、なかなか実態がない。言葉自体は様々な意味を含んでいるが、それを実態化していくことが都市計画マスタープランの中では問われる。ワークショップの中で住民の方たちからどんな連携や協働ができるかということを引き出して、ご意見を頂いて集約するのも一つかと思う。

【委員】

P.1第3「4 協働と政策連携による都市づくりの推進」について、左の図はわかりやすいが、文章に政策連携の部分があまり書かれていないので足した方がよい。

政策連携というのは「防災」、「交通」、「住環境」などの間の政策を連携すると理解しているが、人によっては協働することが政策連携と読む人もいるかもしれない。前者の捉え方でいいのであれば、協働によって政策の間の連携を生み出すなどの考えを入れた方がわかりやすくなる。

P.5第4章の都市づくり方針「4 持続可能な低炭素型都市への転換」の「風とみどりの道」のところで「霊園、大学の大規模なみどりを街路樹や沿道の緑化などで結ぶ」とあるが、池袋駅周辺の大通りも、「風とみどりの道」にするという話だった。書きぶりを工夫されたほうが良い。

「8 東京の魅力を担う池袋副都心の再生」の「(4)体感できる低炭素型都市づくり」のところで、“体感”と使うと、暑さや寒さを体感するということに捉えられがちかと思うので、“実感”できる等の言葉の方が相応しいのではないかと思う。

【委員】

第1章「第3 構成と改定の基本的な考え方」のなかで、“協働”をたくさん入れていて非常に評価すべきことと思う。今後のまちづくり、人づくりを含めて重要な点だと思うのでぜひキーポイントにして頂きたいと思うが、絵に描いたもちで終わってはいけない。資料4に「地区区分・ワークショップについて」と書いてあるが、ワークショップから意見を吸い上げて、協働のルールづくりなどに具体的に結びつくのか聞きたい。

豊島区がなぜ人口密度日本一になったのか、大きな理由は超高層マンションだと思う。空中住民と以前から申しているが、コミュニティが今までの町会組織などといった「面」から「点」に変化してきている。新しくマンション管理推進条例ができて良いことだと思うが、築30年以上のマンションが増え、その中には非常に悩ましい問題を抱えたマンションがある。防災問題も、これからの空中住民に対する考え方、コミュニティの大切さを重視すべきである。空中に伸びている危険性、コミュニティの喪失についてももう一度考えて欲しい。

道路の問題では、自転車で行きやすい状況になっていない。バリアフリーになっていない。池袋の西口から東口に行くのに、自転車でまっすぐ行けるところはない。3箇所道はあるが全部不可能で、どこかで一度自転車を降りないといけない。自転車は、低炭素で健康に良い乗り物なので推進したい。最近では、高齢で足の悪い人が自転車に乗るケースが増えているので、健康づくりとして自転車道づくりを考えて欲しい。

【委員長】

ワークショップそのものが協働の一つの姿なのか、その点について事務局から意見があるか。

【事務局】

都市計画マスタープランのなかで“協働”というものがどういうものであるかひも解いていくのは難しい。その方向性を出す為には、区民のみなさんとワークショップをしながら進めていきたい。

【委員】

緑化計画一石七鳥といつも申し上げているのだが、最初の一鳥は防災である。阪神淡路大震災の頃に、公園のみどりに囲まれたところに逃げた方が助かったり、街路樹で火が止まった例がある。豊島区でも、最初の避難場所は小学校になっているが、みどりで囲まれていないと結局は熱風で被害が大きくなることもある。区長はみどりに理解があるようなので、例えば学校を防災拠点とするならば、そこをきちんと緑化拠点にするなどの形でみどりを増やしていかないといけない。そこに至る

までの避難路も、街路計画をするべきである。そこで出てくるのが落ち葉の問題だが、環境教育などで子どもたちが研究して、どう処理したらいいのか考えさせたら良い。

低層の4階程度のマンション群でもコミュニティは崩壊している。地方に行くと、元々住んでいるような古いまちでもコミュニティは崩壊している。何かを建てる事業者に対して、そこでのコミュニティの保全のための組織づくりを義務づけ、周りに残っている方たちの面倒もみるような、地域コミュニティに根差したマンションを指導することが必要だと思う。

【副委員長】

色々な主体が連携する、協働するというのもあるが、何よりも一番重要なのは行政の内部がどう連携するかということである。みどりも色々なところに絡んでくる。

資料2 P.5の都市づくりの方針の項目が全部で36項目あるが、これを縦横軸にして、どことどこが連携しなければいけないのかという重なり具合を確認することで、特に行政内部の施策連携が見えてくるのではないか。また地区別検討のときも、つながりを意識しながらそれぞれのまちでどうしたらいいか、考えてもらえるとよい。

中間のまとめとして表に出る時に、資料3の目次が、すべての目次ととられると誤解がある。「全体構想」と来年度進める「地区別構想」と、それらを受けて「都市づくりの実現に向けて」という3部構成を示すべきである。

特に「都市づくりの実現に向けて」のところに、政策連携や協働、それを役割分担と置き換えれば、誰が何をやるのか、それらが合わさりどの様なまちができてくるのかということだと思う。区、地域、区民、企業の役割と責務、つまり協働と連携とは何かや、どうするのかということであったり、その協働と連携を実際に有効に働かせる為の仕組みであったりする。まちづくり条例も一つかと思うが、大規模開発をいかに誘導するのかという仕組みも考えなければいけない。共有すると同時にディスカッションして、こんなまちにして欲しい、こんなマンションをつくって欲しい、こういう開発をして欲しいなどの誘導する仕組みが、実現に向けてというところでは大きなポイントになる。

4人ずつ12地区が一同に会してワークショップをするイメージだが、この4人は誰なのか。この4人で本当に地区のことが議論できるのか疑問である。

将来都市像を見ていると、拠点多いが、地下鉄・私鉄で10箇所、JRで4箇所、ほとんどの地区境にあるので、拠点をどう地区別で検討するかというのが一つ課題としてある。それぞれの地区の駅前が顔となり得るので、隣接する地区と共有することがないと、拠点の将来像や方向性は出せない。そこは一同に会するメリットなので、一度拠点を考えるという時には、関係する地区と一緒に議論できるステージをとってもらい意見を伺うことが大事である。

【委員】

12 地区というのは区政連絡会の地区割りと同じと考えてよろしいか。

【事務局】

現在の都市計画マスタープランで区分した地区なので、若干ずれている。

【委員】

区政連絡会を基本に町会や地域の住民のつながりがある。他のことでも、区民広場や高齢者を見守る包括支援センターの区割りなど色々な行政単位があるが、全部異なっている。住民が活動し、常にコミュニティを持っている単位に活動拠点をもっていってもらったほうが意見の集約などは図りやすい。

【委員長】

協働を考える時に、住民の責任と義務、責務というところが整理されないと、次のステップに行けない。住民が提案した計画をつくって、他の住民から提訴され、支払いの命令があった場合に計画を出した住民が負担するのか、どういう役割分担をするかなどが整理されないと、言葉だけの協働で実際にうまくいかない。本来は NPO 等が中心になって動かしていけるような形にするべきである。こういう機会に議論できると一步でも前に進めて、解決していけるかと思う。

形成軸と連携軸の整理もしっかりしていただきたい。豊島区の中の話と、隣接区のまちづくり方針のなかにおいて豊島区どう考えていくのか整理が必要である。例えば、北関東の都市では水戸で文学館をつくるのであれば、佐野では美術館をつくりますと、どこの都市でも同じものをつくるのではない形での連携もある。副都心でも新宿や渋谷と単に戦っていればいだけなのかを考える。

課題別から目的別にしたのは、少しでも区民の方にわかりやすいようにしようとしたからで、「都市づくりの実現に向けて」の章でまとめる必要がある。一方で行政的に対応できないこともあるかもしれないので、この場で話し合うことができればよい。

次に、本日の議題 3 のワークショップについて説明いただき、議題 2 も振り返りながら議論したい。

3 地区区分・区民ワークショップ（案）について

事務局から説明した後、質疑応答を行った。主な発言は以下の通り。

【委員】

各地区4名ということだが、メンバーはある程度は決めるが参加はオープンにする、半分開かれた委員会というか、固定メンバー以外でも参加したい人は更に参加できるという形でやっているところもあるので、そういうやり方をするのも一つの方法かと思う。

もう一つは、ファシリテーターやモデレーターの役割がワークショップでは非常に大事になるので、事務局がそのままやるのではなく、ニュートラルな方、外から専門家を呼ぶなどが望ましい。地区に入って行って合意形成を図る専門家がいると思う。場の雰囲気づくりも重要で、その辺りを考慮すると費用対効果の高いワークショップができる。

【委員】

地区区分については疑問がある。現行の都市計画マスタープランでもこの区分なのか。色々な区分があると先ほど聞いたので、どういう区分があるのか示して欲しい。

ファシリテーターについて、目白は色々なワークショップをしていて、その度に、目白まちづくりメンバーの一人でとても良いモデレーターをする方がいるので、その方をお願いしている。例えば、今までやっていたグループで、相応しい人がいたらその人をお願いするくらいのオープンマインドにやれるとよい。そういう人がいない地区には、区から人を派遣する。

人数については、4人で決めるのはあり得ない。原則参加のメンバー以外をオープンにして、場面によっては子どもワークショップをやってもいいくらいにオープンにやっていく方がよいのではないか。

【事務局】

人数については、ご指摘の通りなので更に考えたい。公募委員については、次の広報としまで各地区1名を募集するので、先ほどご意見として頂いた、中核メンバーを決めて、それ以外はオープンに入っていただくなどの方法について検討したい。

地区区分については、ご指摘の通り色々な区分がある。先ほどの町会単位では、放射36号線のところで要町が分断され、分断されたところが同じエリアになっているのでまちづくりを議論するのは難しいところがある。今後検討する。

【委員】

住民ワークショップの時にいつも問題になるのは、サイレントマジョリティのことである。こういった場に出てくる程には元気はないが何か問題を抱えている人たちの声を知っている、民生委員などがこのメンバーに入って意向を出してもらえる

とよい。

【委員長】

4名のうち1名を公募で選ぶという話だが、その1名についての募集が今度の区報に載るとのことか。

【事務局】

各地区、地域の代表の方、町会や商店街の方も当然お選びするが、それ以外の方を公募委員ということで考えている。

【委員】

4名で12のテーブルを置いて、各地区全部で48名くらいの方が参加するというイメージなのか。

【事務局】

運営上12地区をおおまかに3つほどのグループに分けて、その中で検討していただくことを考えている。12地区が一同に会うイメージではなく、一回4地区、4×4の16名程で集まるというイメージである。複数の地域が場所としては一緒に集まってもらうが、代表の方がそれぞれの地区について、それぞれで話し合ってもらうことを考えている。別の地区が入り混じって話し合うというわけではない。

【委員】

最初に大勢で話し合っ、その中から選出された代表が行くような第2段階のイメージの方が望ましい。

【委員】

雑司が谷の旧高田小学校の公園化で、どういう公園にしたいかというワークショップを開いたら老若男女60名くらいが第一回に集まって、何をしたらいいか話し合った。そういう場合と、都市計画マスタープランと性格がちがうのかなとも思う。あまり色々な意見が出てしまうとまとまりがつかない気もする。

【委員】

多様な意見があったというのも、それもそれなりの結論である。各地区がそれぞれに抱えている直近の問題、先の問題はそれぞれ違う。最初は地区でまず話し合ってもらって、それから抽出したものを地区の方に広報などで見て頂いて、そのときに決めた代表4人に、もう少し大きな地域での代表者メンバーのワークショップを

するのが望ましい。

【委員】

参加メンバーとしては、町会長さんも一つの意見だが、ワークショップの目的を見ると、このワークショップ自体が協働の一つのきっかけになる目的があると思う。町内会ではなかなか声を出せない人の声も拾い上げることが大事である。部屋の四隅にそれぞれ違う分科会のようなものを設けて、午後になったら全員で話すなど工夫の仕方はある。最初は地区ごとの埋もれた声をうまく取り出す、合意はつくらなくてもいい気がする。アイデアが出てきてこんなことができるのではないか、という話ができれば、ワークショップは成功である。

【委員】

マンションコミュニティの話があったが、新住民の方も積極的に出て欲しいというのと同時に、池袋周辺はオフィスが多いので、事業者、昔では商店だが今はビルのオーナー、テナントでも店長が出てくるように誘導する事例が大手町などではあるので、事業者にも声をかけて欲しい。

【委員】

ワークショップで黙ってしまう人や、一人がずっと喋らないように8名程度が適当だと言われるが、いずれにしても4名では難しい。

長崎、千早地区では、拠点が四隅に分かれている。千川駅を使う人は椎名町駅のほうを全然知らないなどがあるので、ある程度土地を知っている人たちを集めるとしたら、人数が増える可能性もある。

地縁的に働きをしている人も必要だが、みどりや学校などテーマを持ってそれぞれ動いている人も選ぶなど、バランス良く最初にセッティングしないと難しい。1地区3テーブルくらいがそれぞれ発表し合って聞きあうというやり方もある。

【委員長】

ワークショップのメンバーについては、柔軟性をもって対応をしてもらいたい。一回目をやってみてから4人+ α にその先広げて行く等のやり方もあるかもしれない。4人が全部出席できるとは限らないので、今後検討して頂きたい。

12地区については、やはり境界のところの話、駅を顔にするのか、小中学校を顔にするのかがある。戦災復興の時の計画は駅中心ではない。幹線道路や鉄道で囲まれたなかで一つのコミュニティをつくろうという形をとっている。地区の境界にある施設等をどう扱っていくのか、それぞれの地区でも議論したい。

12地区については、これをベースに考えるということによいだろうか。

事業者に参加してもらった話があったが、池袋東地区や西地区などでは、住民だけで考えると必ずしもうまくいくとは限らない。私が経験したところでは、他区の案は、住民ベースで考えすぎて、うまくいかなかったことがあった。事業者や働いている方、オーナーに入ってもらえれば良かったので、構成のなかで考えて頂けるとありがたい。

ワークショップのメンバー募集等が始まり、第6回の時に報告が出てくるということだが、次の第5回辺りで概ねの動き、方針を再度報告して欲しい。

【委員】

資料2 P.3 基本理念に、子どもたちに引き継ぐとあるが、子どもたちが引き継がれるだけで主体として参加していないように感じられる。子どもたちも含めてコミュニティであると、更にそれを継いで行くというようなことを書いて頂きたい。待機児童等の問題あるが、保育園というのは住民にとって迷惑施設と考えられていて、子どもを社会の一因と考えていないところが非常に気になっている。

4 今後のスケジュールについて

事務局より、第5回改定検討委員会は3月中旬～下旬頃開催予定の旨を説明した。

会議の結果	・ 本日の議論を踏まえ、継続して改定作業を行う。
提出された資料等	資料1 豊島区都市計画マスタープラン改定の検討の進め方 資料2 豊島区都市計画マスタープラン改定「中間のまとめ」(素案) 概要 資料3 豊島区都市計画マスタープラン改定「中間のまとめ」(素案) 資料4 地区区分・区民ワークショップについて (案) 資料5 都市計画マスタープラン改定のスケジュール 参考資料1 将来都市像 (案) 参考資料2 まちの成り立ち
その他	